

はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長・病院長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

馬場 秀夫

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構の運営、ならびに「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク寄附講座」及び「感染症対応実践学寄附講座」の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和5年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

さて、熊本県における医師の地域偏在を解消することを目的に、平成25年12月に県により設置された本機構も、設置から早10年が経過しました。また、医師の地域偏在の解消とともに、地域医療の充実のため地域医療を担う総合診療医等の養成を目的に設置した「地域医療・総合診療実践学寄附講座」も設置から8年、熊本県の地域医療連携ネットワーク構想を推進するために設置した「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」も5年が経過し、昨年度は新たに、新興感染症や院内感染予防などに対応可能な感染症専門医の育成等を目的に「感染症対応実践学寄附講座」も設置したところです。

熊本県は全国的には医師多数県に数えられますが、県内の地域ごとの比較をすると熊本市への集中がみられ医師の地域偏在が顕著となっています。医師が慢性的に不足している地域においては、人口減少と高齢化が進展する中で、この数年、日本中、そして世界中に蔓延することとなった新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、地域の医療機関は地域住民への適切な医療サービスの提供に非常に苦労されてきました。地域における持続的かつ適切な医療提供体制の確保を図ることがいかに重要であるか改めて認識しました。

本機構においても、コロナ禍での事業展開は決して容易ではなく、寄附講座も含めて、当初の計画を中止、変更、縮小するといった決断を余儀なくされ、十分な取り組みができないこともありました。オンライン配信等々の工夫をこらし、事業の歩みを止めることなく、できることを一つ一つ着実に取り組んでまいりました。

令和5年度に入り、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行する中で、国内の社会経済活動も徐々に平常へと向かいつつありますが、本機構や寄附講座の取り組みについても、ようやく計画どおりに事業が実施できるようになり、この活動報告書でもこうしてその報告ができるようになったところです。

しかしながら、医師の地域偏在の解消には長い時間を要します。依然として本県の地域医療を取巻く状況が厳しい中であっては、引き続き、本機構と「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」が相互に連携して、それぞれの役割を果たしていくことが肝要であると考えます。

本機構といたしましては、今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力してまいりますので、関係者の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(令和6年3月吉日)

2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院
地域医療支援センター センター長
地域医療・総合診療実践学寄附講座
総合診療科 教授

松井 邦彦

いつも地域医療支援センター / 地域医療支援機構、および当寄附講座の活動に、ご協力いただき、有難うございます。令和5年度の活動報告書をお送りいたします。ご高覧いただければ幸いです。

この一年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の流行は収束し、令和5年度は、以前の日常を取り戻すための期間でした。この数年間、流行のために中止され途切れてしまった様々な活動を、少しずつ再開することになりました。

その一つに、夏季地域医療特別実習の再開があります。新型コロナウイルス流行のために、この数年間、開催することができませんでした。流行の波が一段落した時点で、今回こそはと計画し、手筈を整え準備したものの、数か月後の実施する頃には次の大きな流行波が到来し、中止を余儀なくされたこともありました。そのような中、4年ぶりとなる実習の再開です。本年度は天草地域に実習先を定め、一泊二日で御所浦島、湯島、および上天草で、行いました。更に冬休みの期間中にも、冬季地域医療特別実習を、小国・阿蘇地域で行いました。夏の実習に参加できなかった方々にも、ご参加いただきました。これは、以前は行っていなかった、新しい取り組みです。いずれの実習でも、行く先々で大変温かくお迎えいただきました。お世話になった方々に、この場を借りて、感謝申し上げます。

この数年間で、ウェブ上で画面を通じた会議や面談が、すっかり一般化しました。往來の必要がなく、非常に便利であることは、言うまでもありません。その一方で、直接、顔を合わせてお話しする意義について、考える機会にもなりました。地域に赴いた実習や、対面での面談では、何が得られると期待されるのでしょうか。医療の分野でも、DXの導入は当然です。地域医療を取り巻く様々な問題についても、医療DXの導入により大きな恩恵が期待されます。オンライン診療も、すでに普及しつつあります。しかし、それでは得られないものは何か、手間と時間をかけて、対面で行う意義は何なのか。本年度、さまざまな活動を再開するにあたり、常に意識することになりました。今後も引き続き、検討を行うべき課題だと思えます。

最後に、いつも私たちを支えてくださっている、熊本県医療政策課の皆様、また熊大病院地域医療支援センターのスタッフの皆様に感謝を申し上げます。